



いのちに寄り添う知  
— 社会課題解決における古典の役割

ハイブリット  
開催

社会課題の解決に取り組むにあたって、さまざまな専門知や実践知が必要とされるのは言うまでもない。しかし、物事の本質に立ち返り、傷ついている人や自然の「いのち」に寄り添う「深い優しさ(humanity)」が根本になければならない。その上で、異なる声に耳を傾け、共感し、課題を発見すること、自分の専門や経験を活かして課題を解決する行動を起こすことが必要である。物事の本質を捉え、時代を越えて世界の各地で読み継がれてきた古典は「深い優しさ」を養う知の源泉となりうる。このような視点から、今回は古典やリベラルアーツにもとづいて、社会の変革に挑んでいる方々をお招きし、「いのち」に向き合う知のあり方を問う。

■ プログラム

- 18:00 開会挨拶 堂目卓生 SSI長、経済学研究科教授  
18:10 話題提供  
●岡部美香 大阪大学大学院人間科学研究科教授  
「(いま・ここ)を裏支える古層を発掘する — 古典と対話するアクチュアルな意味」  
●橋本美博 日本アспен研究所常務理事  
「ヒューマニティーを中心とした”アспен精神”とその取り組み」  
●松波晴人 大阪大学フォーサイト(株)代表取締役  
「企業の新価値創造における先知の重要性」  
●相良有希子 阪急阪神ホールディング(株)人事総務室サステナビリティ推進部部长  
兼 グループ経営企画室経営推進部部长  
「先人の想いを未来につなぐ仕事とは」  
19:10 ディスカッション (モデレーター: 堂目卓生)  
20:30 終了

2024.07.25 Thu. 18:00-20:30 @中之島センター5階 いのち共感ひろば ●参加費: 無料